第４９回津市総合教育会議議事録

日時：令和４年１１月１４日（月）
午前１０時開会
場所：津市教育委員会庁舎４階　教育委員会室

出　席　者	津　市　長	前　葉　泰　幸
	津市教育委員会	教育長　森　昌　彦
		委　員　西　口　晶　子
		委　員　滝　澤　多佳子
		委　員　富　田　昌　平
		委　員　田　村　学

事務局　定刻になりましたので、前葉市長から第４９回津市総合教育会議の開会の御挨拶をお願いいたします。

津市長　ただ今から、第４９回津市総合教育会議を開催いたします。

事務局　ありがとうございました。それでは、本日の「１　協議・調整事項」であります「津市総合教育会議懇談会の結果に基づく今後の取組について」に入りたいと思います。まずは、事務局から御説明させていただきます。

教育事務所調整担当参事・教育総務課長　はい。それでは津市総合教育会議懇談会の結果に基づく今後の取組について、御説明させていただきます。

お手元の資料１、「令和４年度津市総合教育会議懇談会の結果について」を御覧ください。８月の１７日及び２３日に開催しました懇談会において、今年度は「今後の教育施策の取組について」をテーマとさせていただき、教育の現状についてお気づきのことやお考えのこと、また、これまでの取組をどう展開させていけばよいか等について、津市小中学校長会役員の方々、津市立幼稚園長会役員の方々、現場教職員代表の方々、津市ＰＴＡ連合会本部役員の方々に御意見等伺いました。主な御意見の概要としましては、各団体からの御意見を「ＧＩＧＡスクール構想の実現及びＩＣＴの効果的な活用」、「幼小連携」、「子どもへの対応（不登校等）」、「コミュニティ・スクール」、「教職員の働き方」、「部活動への取組（指導員等）」、「その他」の７つのカテゴリに集約し分類させていただきました。同じカテゴリでも、それぞれの立場から違った視点での御意見を頂いたりもしておりますので、これらを各団体別に整理させていただいたものでございます。

主な内容としまして御紹介させていただきますと、資料１でございますが、ＧＩＧＡスクールにつきましては、校長会からはソフト面ではロイロ・ノートとデジタル教科書、ハード面ではタブレットと大型テレビが二大ツールとして、これらを活用して学びの質を高め、深く学べるようにすることが大事であるという御意見でございますとか、タブレットのリプレイス時の費用や破損時の対応、大型テレビも数が多くございますので計画的な更新についての御心配、御意見を頂いております。現場の職員の方々からは、タブレット学習が定着しまして子どもたちの学習スタイルの幅が広がったことで、有害なサイトが表示されてしまうような点については、学校内ならばある程度指導はできても、持ち帰り学習時にトラブルが起こるのではないかというような御心配、御意見を頂きました。

幼小連携に関わりましては、幼稚園長会から幼児教育の重要性を伝えていた

だいていること、これが非常に心強く感じていることと、それから今年度から架け橋プログラムが実施されることを幼稚園の側からも小学校等へ伝え、話し合いながら子どもたちと連続した学びにつながるよう、積極的に進めているというような御意見を頂きました。

子どもへの対応につきましては、様々な団体から色々な御意見を頂きましたが、校長会からは子どもの貧困等生活の背景を見ながら、しっかりと対応していくことが必要であるということ、不登校の子どもにはタブレット端末の活用も非常に有効であるという御意見を頂きました。ＰＴＡ連合会からは、心の成長として自己肯定感を養うのが必要であり、そのためには読書が大事であるということ、子どもたちの自己肯定感を養っていく教育に力を入れて貰いたいという御意見を頂きました。コロナの影響により家庭環境や経済的な部分が子どもの学びを狭めていないか、学習機会を失っていないか、というような御心配の声であるとか、物価高騰に依りまして食品の高騰が子どもたちに影響していないかというような御意見を頂きました。

コミュニティ・スクールに関しましては、校長会から今後学校の改修整備を考えていくときには、例えば学校の地域への開放を踏まえるなどの新しい発想が必要ではないかというような御意見でございますとか、教職員の働き方に関しましては、教員支援員、スクール・サポート・スタッフの引き続きの人材確保をお願いしたいということを、校長会や教職員の代表の方々から頂きました。

部活動への取組に関しましては、校長会から地域移行という形が提案されているが、移行先である社会教育の分野での枠組みと、学校教育の分野での枠組みでまだまだ差があるという御意見や、一方、部活動指導員の人員の確保は非常にありがたいというような御意見でありますとか、教職員の方々からは部活動の指導について負担に思う先生もいれば、それをやりがいに思っている先生もいるといった御意見もいただきました。

ＰＴＡ連合会からは、今後の地域移行の取組について、津市としてのビジョンをしっかりと保護者へ伝えて欲しいという御意見を頂きました。

その他としましては、校長会からプール授業が３年ぶりに再開されまして、水の事故が多かったのもプールの授業ができなかったことが要因の一つかと考えられるので、今後、民間委託も含めた取組をしっかりやって欲しいという御意見や、教職員の方々から各学校の施設整備に関する感謝の言葉とともに、子どもたちが安心して心地良く使える整備を引き続き続けていってほしいという御意見、それからＰＴＡ連合会からはマスクを外せない子どもたちがいると聞くが、子ども以上に地域や周辺の大人たちの理解が進んでいないのではないかというような御意見を頂きました。

これら御意見を集約させていただきまして、７つのカテゴリ別に今後の取組

案として事務局でまとめさせていただきましたのが、資料の２の総合教育会議懇談会の結果に基づく今後の取組案でございます。資料の２を御覧ください。

まず、「ＧＩＧＡスクール構想の実現及びＩＣＴの効果的な活用」としましては、主体的、対話的で深い学びの実現のために、タブレット端末、大型テレビ、学習ツールなどを効果的に活用できるよう取り組んでいくとともに、タブレット端末の故障などへの対応や大型テレビ更新の検討、機器等活用時のルールづくりについても確認しながら、ＩＣＴ環境のより一層の充実に取り組んでまいります。

部活動への取組に関しましては、引き続き部活動指導員の人材確保に努めながら、子どもたちの活動の確保や教職員の負担軽減等を踏まえた今後の部活動のあり方について検討するとともに、さらに津市の今後の取組について、保護者等へ情報提供できるよう努めてまいります。

幼小連携に関しましては、津市架け橋プログラム実施のため、あり方検討会等のプログラムの３年間の取組を推進し、幼稚園と小学校の接続のあり方について検証を行いながら、乳幼児教育の大切さを発信し、カリキュラムの実施に向けて取り組んでまいります。

子どもへの対応に関しましては、自己肯定感等を育んでいくための教育の取組を実施していくとともに不登校、子どもの貧困、外国につながる子ども等、多様なニーズに対応した支援体制の充実を図るための取組を進め、関係機関等と連携・協働しながら、誰一人取り残さない津市の教育の実現を目指してまいります。なお、この特別な支援が必要な子どもたちへの支援体制の充実のため、現在津市と三重大学教育学部による新たな体制づくりについて検討しているところでございます。また、物価高騰への対応についても検討し、子どもたちが学校へ行くことの妨げとなるような状況が生じないよう、取り組んでいく必要があると考えております。

教職員の働き方に関しましては、スクール・サポート・スタッフについては、国に対し引き続き予算の継続拡充と県に対し予算の活用を要望し、教員支援員については、今後定年年齢の引き上げによる配置についても合わせて検討していく必要があるものと考えております。

コミュニティ・スクールに関しましては、地域とともにある学校づくりの推進のため、各学校や地域の課題に向けた取組と、学校運営協議会、及び地域学校協働活動の充実に取り組んでまいります。

最後にその他でございますが、教育環境の整備として長寿命化改修工事の推進と、トイレ洋式化、エアコン設置等について今後も引き続き検討してまいります。また、引き続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止と教育活動の両立に努め、また水泳授業を継続して行っていくための民間プールや公用プー

ル等の活用の検討を進めてまいります。説明は以上でございます。御協議の程よろしくお願い申し上げます。

津市長　はい。ありがとうございました。ではこの後の進め方ですが、通例であれば自由な形で進めるのですが、これは予算にいずれ繋がっていく話ですので、総合教育会議懇談会で出た意見を踏まえて、事務局が項目別に考えた方向というのが資料１、２で、それぞれ説明がありましたので、今後、施策を作っていくということでいいのかどうかという観点で、この段階でファーストタッチのところで方向性をしっかり導いておかないといけないと思うところとか、あるいは確認をしておかなければいけないと思われるところとか、色々あるかと思いますので、今回は項目別にいきたいと思います。従ってそれぞれの項目に来たところで、もれなく御発言いただければというふうに思います。じゃあこの順番で行きます。最初ＧＩＧＡスクール、ＩＣＴについてであります。何かお気付きのことなどございましたらお願いします。

滝澤委員　ＩＣＴ機器を用いていく部分について、ハードですので、ソフトの面もありますけれど、やはり予算措置というか、ある程度整備がまだまだ必要ですし、それからタブレット端末も壊れたり、取り換え、あるいはまたこの後、また一人一台パソコンの全面取り換えの時期が来ますので、少なくとも支障が無いような形での予算をお願いしたいと思っております。

津市長　タブレット端末をこれからどうしていくのかということですね。説明して下さい。

教育研究支援課教育研究･情報教育担当副参事　タブレット端末につきましては、今、やはり子どもたちの活用が本年度は非常に高うございますので、壊れる場合も起きております。８月末現在で大体２００台くらいの軽微なものも含めまして破損が起きているような状況でございます。今後につきましては、活用をどんどん進めていくことと、それと経年劣化によって破損が生じてくるところ、バッテリー等が弱ってくるというようなこともありますので、今後そういうところも見越しながら検討していきたいと思っておりますし、数年後には大きな入れ替えということも考えられます。現在小学校では、ｉＰａｄ、中学校では、Ｗｉｎｄｏｗｓの端末を使っておりますけれども、機械もどのような機種を使っていくことが、今後いいかということの検討と、今は国の方からの補助で入れておりますけれども、今後の国の動向も踏まえ、他市町の状況も検討しまして考えていきたいと思います。以上でございます。

津市長　タブレットは、あの時点で一人一台入れたので、そのときの全校生徒、例えば小学校１年生から６年生までの数が入っているはずで、その翌年には既に子どもの数が変わっているので、子どもたちが減ったところで、一人一台渡っていない予備のタブレットがあるはずです。そういうのをどうやって活用していくとかというのをもう少し説明をお願いします。

教育研究支援課教育研究･情報教育担当副参事　小学校と中学校で状況が違っておりまして、中学校については生徒数がそれほど大きくは変わっておりません。ですので今当初入れた台数を現在も使っているところですが、小学校につきましてはやはり児童数が減少しております。その分につきましては、少人数の授業で活用したりだとか、少人数で活用する教員がその端末を使ったりだとか、不登校の子の指導というところがありましたけれども、ふれあい教室、ほほえみ教室の方にも台数を回しております。

津市長　そうやって回していくと、現実に、目の前で壊れてさっとリプレイスしたいときに、予備の端末をプールしておいて、そこから壊れたところへ持っていったらいいと思うのだが、そういうことはやっているのですか。

教育研究支援課教育研究･情報教育担当副参事　もちろんそういうこともやっております。子どもたちが壊したときにすぐに返せるように対応しておりますので、原則周知もしておりまして、予備の機械を回したりもしております。

津市長　元々そういうことで２年目以降は、柔軟にリプレイスするようにと言っているのだけど、どうしても先生たちは目の前にあるとすぐ別の所に使いたがるので、もうちょっとシステマティックに、ちゃんとプールする場所を取っておいて、そこでうまく入れ替えていくようにしないと、ある子の分が壊れてそれをリプレイスするまで、しばらく修理に出しますとかやっていたら、その子どもの学習が止まってしまわないかという問題が出てくるのです。

教育研究支援課教育研究･情報教育担当副参事　子どもたちの学びが止まらないということが大前提でございますので、柔軟な対応を考え、そのようにしていきたいと思っております。

教育長　故障とその予備タブレットの数のバランスというか、例えば故障が予備に追いつかないぐらいなのか、要は、小学校の端末はどちらかというと故障が少なく、多いのは中学校の端末で、その中学校の故障と先程言われた中学校

の人数はあんまり変わっていないのが苦しいところであって、小学校はどちらかというと機種が結構丈夫で故障しにくいのですけど、中学校は故障が多いので、その辺のタブレットの予備分と故障の多さとが追いついていかないということがあるかなと思います。

津市長　使う頻度も多いでしょうから、中学校の予備機について充実していく方向で。

田村委員　私も随分気になっていました。最初、端末を導入するときの台数の見積りが、生徒数から出したもので、そこから当然物だから壊れますから予備機をどれだけ見込んでおくか、壊れたらすぐこれを使ってと言える状態を作っておかないといけません。実際に、今年度軽微なものも含めてという形で既に２００台の破損ということで、多分運用している中で大体どれくらいの故障の頻度とか物にもよると思いますけど、そういう実績も溜まっていると思いますから、それもしっかり分析して、次の更新時の台数の見積りを、把握できる児童生徒数からどれだけ多くするかという考え方があってもいいかなというのがあります。

教育研究支援課教育研究･情報教育担当副参事　今、実績をというお話だったのですが、特に中学校の方は、やはりＷｉｎｄｏｗｓの機械の特性があるのですが、ノートパソコンのような形をしておりますので、モニター部分が重たいというようなところがあって、若干落ちるとすぐに破損しやすいという傾向があり、昨年度中学校の場合は修理にかかったのが１１４台くらいでしたが、本年度は８月末の時点で１８３台ということで、やはり数としては増えております。ですので、こういうふうな傾向も踏まえまして、来年度、単に破損だけではなくて経年劣化の部分を少し見込んで考えていきたいなと思っています。

津市長　元々交付税で見て貰っている部分があるので、それを一気に入れるときに、あまり交付税の一般財源を使わずにうまく入れたような経緯があります。教育委員会として考えていってもらえればと思います。
　他に何かありますか。

西口委員　ＧＩＧＡスクール構想で、先程からハードのことが出ていましたが、今年度予算としてＩＣＴサポーターというのも付けていただいたと思います。今回これが何処にも出てきていないのですが、今年度の活用状況と来年度の見通しというのはどうなのかということをお願いします。

教育研究支援課教育研究･情報教育担当副参事　ＩＣＴサポーターは今現在３名の者を任用するという形で進めております。１名が教育委員会の本庁舎に常駐をしまして、電話のヘルプサポートということで電話対応をしております。特に年度初めのＩＤの発行でありますとか、学校が故障で困ったというようなときにすぐに応えられるようにしております。もう一人が学校を巡回するような形で回っているのですが、学校の方から要請がかかって派遣をしている状態です。ほぼ毎日どこかの学校には行っているというような状況で、なかなか空きが無いような形で進めております。

現状は少し偏りも出ておりまして、このＩＣＴサポーターが来てもらえると、サポーター自身の人柄もあってどんどん来て欲しいという学校がたくさんあるのですが、なかなか使ったことのない学校からは要請が掛からないということもありましたので、２学期につきましては、こちらから意図的に派遣させていただきますということで、学校へ入るような形を取っております。本当にニーズとしては非常に高い部分でありますので、学校としてもこちらとしても非常に有効かなというところです。

西口委員　やっぱりハードとソフトと、それらを両方とも繋いでくれる人というのが重要になってくるので、是非今後も充実というか継続というかそういうのが大事じゃないかなというふうに思っています。

津市長　はい、ありがとうございました。よろしいですか。はい、それでは富田委員。

富田委員　ＩＣＴを活用した教育というのは、この組合の先生方の御意見にもありますように本当に急速に発展して定着していて、それは研修会をしっかりやっているおかげとありますように、そこはすごく大きいかなと思います。うちの子どもの様子を見ていても、本当に日々学習スタイルの幅が広がっていると感じるところですので、これはもう、どんどん充実していっているということを、保護者としても実感しているところです。ですから、今後はハード面を維持しながら、ソフトの中身を更に充実していくという展開になっていくのかなと思っています。

ただ一方で、やっぱり幼児教育では少し気になるところがあり、この間ある研修で、ＩＣＴを活用した教育というのは環境による教育なのだという話があって、なるほどと思ったのですが、今、幼児期の教育も環境による教育ということで、子どもたちが環境と関わりながら興味関心を広げてということなのですが、ＩＣＴを活用するときの出会い方も、非常にそれとよく似ているという

お話で、それによって教育のスタイルというのもどんどん変えていくという話だったのです。それによると、やはり幼児期の教育もこれまでデジタルというのはあまりというようなところがあったのですが、それも環境の一部だということで、現場の先生方も活用していけるような力量を是非研修等々、あとハード面も整えていって、教職員の数が少なくなっていますので、上手く繋がりを作りながら研修等をやっていただくと良いのかなと思いました。

津市長　そうですね。はい、幼児教育担当。

学校教育課幼児教育課程担当副参事　初めてタブレットが入ったときに、どのように使っていくのかという現場の戸惑いの声がすごくありました。先程おっしゃったように、幼児教育というのは直接的な体験とか経験の中から学ぶもので、タブレットに頼るということが現場としては抵抗があったのですが、やはり基本的なこととしては、幼児教育で培われる非認知能力の中で、タブレットを使っていく姿勢を育てていくということを考えてきております。

今、インターネットパソコンによる研修が可能になり、今年タブレットが入ったことで、いろいろ研修を行ってきました。タブレットを使うメリットとしては、例えば園庭で捕まえた昆虫を子どもたちと共有して調べたり、今まで見えなかったものを拡大して見たりとか、いろんな使い方を考えております。また研修が何度かあったのですが、タブレットやインターネットを入れていただいたことで、全国へいろいろな研修がオンラインで参加できるようになったので、教員の資質向上にも繋がっています。

今、一番効果が出ているのが、園の子どもの姿を保護者に動画で伝えるということを各園で取組を始めておりまして、保護者へのアンケートの中で、今、子どもが家に帰って話していたことが、動画で見ることで、こういうことがあったからなのだと、保護者の幼児教育への感心が高まったり、今まで先生が話していたことを動画とともにすることで、子どもの遊びの中の成長した姿が具体的に分かって、家庭としての幼児教育の重要性がすごく伝わってくるなど、好評な結果を頂いております。取組を進められていない園などがあり、市内でバラつきも見られますので、いろいろな良い事例を発信しながら、各園でタブレット端末、インターネットを活用し、でも基はやはり非認知能力の幼児期の基礎を培うということを職員と共有しながら、活用してまいりたいと思っております。

津市長　そのソフトの充実というお話も出ていましたけれど、実際教科書との関係ってどうなのでしょうか。来年度のデジタル教科書はどうなってきますか。

教育研究支援課教育研究･情報教育担当副参事　デジタル教科書ですが、現在、各学校にデジタル教科書が指導者用と学習者用と入っているところがございます。国が今、研究として取り組んでいるところではあります。国で令和６年度から中学校英語、数学と導入していこうという動きがございます。今、学校の現場の状況も聞きますと、やはり英語につきましては大型テレビにデジタル教科書を映して、そこでデジタル教科書に入っているコンテンツの部分、特にネイティブで発言するというところが非常に有効的だという意見が来ています。ですので、大型テレビとデジタル教科書というこのセットは、やはり非常に有効だなと考えております。

津市長　令和５年度の予算ではデジタル教科書はどうなっていますかという質問です。

教育研究支援課教育研究･情報教育担当副参事　令和５年度につきましても今年の状況で引き続き使用できるということですので、既にライセンスとしては購入済みということです。来年度も中学校で活用できます。

津市長　分かりました。他いかがですか。
　では次にまいります。
　次、部活動ですね。地域移行について、いろいろな意見というよりも地域の方々からは、どうなるのだろうという質問を本当によく聞きます。どうぞ、御自由に御発言ください。

教育研究支援課長　スポーツ庁、それから文化庁から地域移行についての提案が出されてから、校長会の代表の先生、中体連の代表の先生、スポーツ文化の担当部局の代表の方々に集まっていただいて、３度ほど、打ち合わせの会を持たせていただきました。９月には各学校へアンケートを取らせていただいて、今、地域移行に関して抱えている課題等を整理しているところです。その中から出てきた課題としましては、地域の受け皿の問題、指導者の確保、それから家庭の経済的な負担が増えるのではないかという懸念であるとか、万が一、子どもたちが怪我をしたときの対応はどうなるのか、それから中体連の大会に対する参加要件など、いろいろな課題が出てまいりました。
　ところがまだ国から部活動の方針、方向を示すガイドラインというのが、本来ならばもう出てくる予定だったのですが、それが１２月ぐらいになるということで、まだガイドラインがきちんと改訂されていない状況と、それから中体連の参加要件につきましても国からは出ておりますが、県の中体連、市の中体

連ではまだ整理している段階です。そこら辺が間もなくきちんとした形で下りてくるという話を聞いておりますので、そのあたりを整理した上で、まずは学校長へ発信させていただき、その後１月２月には入学者説明会がありますので、来年度に向けてということで発信させていただければと考えています。

津市長　それは津市教育委員会事務局としては、きちんと積み上げてやっていると思いますけども、現に先行してやっている他の地域の取組が、どんどん報道されている中で、津市の特に小学校６年生の保護者からよく聞くのですが、うちの子どもが中学校へ行くときはどうなるのだろう、もうすぐあと４カ月後だけどという質問が多いのです。だからもうちょっと発信をして欲しい。津市の教育委員会として部活動の地域移行についてはこのように考えています、とりあえず令和５年度は直ちに地域移行することはないのなら、ありませんというふうにはっきり言わないと非常に分からない。その辺はどうですか。

教育研究支援課長　実はこの土曜日にＰＴＡの小学校部会の会がありまして、その中で、今後発信させていただくということをお伝えさせていただきました。その後、もっとたくさん質問を出していただけるのかなと思っていたのですが、まだ今の段階でその場の中では出なかったです。

津市長　だから、発信しないから質問は出ないのです。こちらからどういうふうにやろうとしているかを言わないから分からないという質問しか出ないのです。

　発信するためには、教育委員会の５人でもうちょっと詰めて貰わないといけないのかもしれませんが、要は先進的なというか先行的なというか試行的な取組が進む中でどうするのという話と、それから、これから議論する部活動指導員が、教員の多忙化対策としてある程度リプレイスできているのであれば、しばらくこういう形でやっていきますというのであれば、もうちょっと津市としてはこうしていきますという形で言わないと。私は、非常にちょっと後手に回っているなという印象があるのですが、どうですか。

教育研究支援課長　はい。部活動指導員の活用も含めて、しっかりと話し合いを進めて発信をさせていただきます。

津市長　是非そうしてください。

学校教育・人権教育担当理事　すいません市長よろしいでしょうか。

津市長　どうぞ。

学校教育・人権教育担当理事　補足させていただきます。部活動指導員ですが、実は県政要望で県にもお願いに行っておりまして、今年度は１３名で、市長が先程おっしゃっていただきましたように、なかなか地域移行が見えてきてない状況がありますので、その間、部活動指導員を充実させていくということで、来年度につきましては各中学校区に１名程部活動指導員を置いて、そこから地域移行の人材確保ということにも繋がっていくと考えますので、そのあたりを県にも要望を挙げさせていただく方向で話をしております。県としてはできる限り、その間のつなぎも考えているので、部活動指導員をどんどん挙げてくれと言っておりまして、中学校の先生方とそんな話をしております。今まで津市は、部活動指導員の要件を大分厳しくしておりまして、教員免許を持っていなければならないとしていたのですが、ちょっと要件を下げまして外部指導者を３年間していて校長の推薦があれば、部活動指導ＯＫとするように、そこも進めさせていただいております。

津市長　例えばそういうのも一つのスタンスだと思います。現場の教育委員会事務局が、例えば基準が来てないとか中体連が決めてないとか、いろんなこと言いたいのは良く分かるのですが、言えば言うほど、結局自分にブーメランで返ってきます。国として進めるということで進んでいるのだから、その詳細が分からないからまだお示しできませんと言っていると、どんどん他の自治体、他の教育委員会の後ろに回っていくので、津市のできる部分はこうやりますというところ、積極姿勢の部分を見せていかないと、私は、非常にちょっともどかしい感じがしています。

教育長　はい。発信していきます。津市は準備委員会を開いて、どうしていくかという方向性も進めています。ただ、この前の教育長会でも話を出させていただいたのですが、今、報道されているのは特定のクラブとか特定の地域とかで、あたかもやっているようにしていると。で、津市もやろうと思ったらできます、できるところからやりましょう、ただできるところからやっていくと、まず土日だけで平日はどうなるのかなど、後に不明確なところが出てきますので、ちょっとそれを待とうということで止めているのです。だから例えばできるところから進めていくのなら進めていくという方向もあるだろうし、いや、当面しばらく様子見ます、指導員でやっていきますという方向もある、いずれにしてもそういった方向性を、今の高学年あたりから中学生にかけての保護者に対しては、やはりきちんと発信させていただきたいと。

津市長　できるところからやれと言っているわけではないのですが、だからといってじゃあどうするのと聞かれ続けるというのが実態ですね。
　他どうですか。

田村委員　先程からの議論もありますし、この資料で、懇談会の様子をまとめていただいたＰＴＡの思いというのは、まさに津市としてのビジョンをしっかりと保護者に伝えて欲しいと言われている、ここに表れていると思うのです。やっぱり伝わっていないのだと思うのです、市長が言われるように。だからそれは努力してないとは思いませんけれど、やったつもりではいけないので、相手が伝わったと思っていただいてこその結果なので、しっかり保護者の気持ちが表れているなというふうに見せていただきました。
　それともう一つ気になるのは、予算に絡む総合教育会議だと思うのですが、国は５年度とか言っているのに、その前年の４年度に、これ来年の事業として、予算要求とか政策協議とかそういうものを挙げていくようなものが全然なさそうにしか見えないのですが、それで大丈夫かなと、無責任な言い方かわかりませんけども少し気になりました。

津市長　今の教育長あるいは理事の話だと、部活動指導員の増員で協議をしていくという意味ですか。

田村委員　それでよろしいのですか。

学校教育・人権教育担当理事　はい、今のところは。

田村委員　情報提供であったり、保護者の関係ではお金を使わずにやっていくと。

学校教育・人権教育担当理事　そうですね、来年度については、今のところ、そのように考えています。

津市長　お金を使うかどうかは別にして、発信はやはりしていってもらわないといけません。

学校教育・人権教育担当理事　分かりました。ありがとうございます。

津市長　はい、どうぞ。

富田委員　実態としてどうなのかということは少し気になるのですが、実際に中学校の部活動に外部指導者が関与するということは、うちの子が行っている中学校の話を聞いても、多々あるとは思うのです。やはりそれは部活の顧問の先生の個別の努力によるところが多分大きくて、うちの子の場合は吹奏楽部に入っていますけれども、この４月に教員が異動して新しい先生になって、その方が伝手を持っているから週末のたびにいろいろな先生が、外部の方がやってきて教えてくださるということがあるのですね。ですから地域というよりは先生が持っている伝手ということで、それがどんどん移動していってる状態だと思うのです。実態としてどの程度その中学の部活に外部指導者が関わっているというような実績があるのか、ちょっと知りたいところかと思っています。

津市長　では次回の総合教育会議でデータを出してもらって、具体的にどういう形で部活動指導員を増やしていくのか、あるいは今、富田先生がおっしゃったような、外部の指導ができる形で入ってきているのかというのをちょっと一回データとして見せて貰って、それを見ながら話をさせてください。

他によろしいですか。では次に行きます。幼小連携ですね、資料２の２まで今やっています。幼小連携、架け橋プログラムですね。来年度が２年目になりますが、どういうことを考えていますか。

学校教育課幼児教育課程担当副参事　２年目に関しては、１年目にワーキング会議や検討委員会で進めたカリキュラムを、モデル校区で取り組んでいきます。その２年目の取組に関するこの今年の取組ですが、今年、架け橋委員会とワーキング会議をもちまして、アンケートを行いましたが、本当に想像していた以上にたくさんの施設から小学校に就学する実態がありました。そこでワーキングの中では、公私立の幼稚園、保育所、認定こども園の先生方が代表で集まっていただいて話を進めていき、検討の中で更に幼児教育の充実化と小学校の接続に向けた教育課程の養成の重要性や必要性を、今、出してもらっています。

また発信についてですが、１０月にはＰＴＡ連合会の代表の方と教育長との語る会を持って、架け橋プログラムについて説明させていただいたり、先日の土曜日の幼稚園の交流会で、各園の保護者の代表の方々に来ていただいて、取組を説明し、家庭と教育と一体となって進めていったものを、２年目のモデル校区で取り組んでいきたいと思っております。

津市長　他にありますか。

富田委員　そうですね、私もあり方検討会とかワーキングの方に参加をさせていただいておりますけれど、公立だけではなく私立の園等の方にも参加していただいて、小学校の先生方にも参加していただいて、出だしとしては非常に好調なところかなと感じています。ただ来年以降といいますか、これからの課題としては、順番としては幼児期の教育が充実していって、その中身を小学校や地域の方に発信していく、その幼児期の教育の充実の中身を受けて小学校の教育のあり方というのを、特に低学年の中身を変えていきつつ充実させていく、それによって接続連携というのが果たされていくという順番になろうかと思います。その際にやはり幼児期の教育の充実というときに、私立の園の方たちの話の内容が個別にありますし、その一方で津市としての共通性というものも持たせていかなくてはならなくて、私立各園の個別性ということを大切にしながら、一方で津市としての共通性ということを担保していくというところのバランスというのが、今後なかなか難しそうだなというのを感じますので、その辺を少し工夫というか意識していくところかと感じています。

津市長　そうですね。はい。他によろしいですか。

西口委員　津市のこの架け橋プログラムが、来年２年目ということなのですが、話を聞いていて幼稚園の数が減ってきて、小学校にいろいろな幼稚園から子どもたちが入ってくる、ということは小学校現場からすると、子どもを小学校に慣れさすというのがだんだん難しく時間がかかるようになってくるという現状もあります。ですので来年度以降の提案として、幼児教育のアドバイザーというのを一人つけていますが、その方を幼稚園だけじゃなく小学校の低学年あたりにも派遣しながら、小学校側から子どもたちを受け入れる学校へのアドバイスというか、その人も上手に架け橋になって幼稚園と小学校につながっていくと良いなというのが来年度の思いです。

津市長　アドバイザーさんに小学校の架け橋になってもらうと。

学校教育・人権教育担当理事　幼児教育アドバイザーは小学校に行ってもらってないです。小学校での学校サポーターが１年生に入ってもらうことはしていますが、幼稚園のＯＢの方がというのは今のところはないです。

西口委員　そのあたりをぜひ。

津市長　よろしいですか。では次に行きます。子どもへの対応ですね。これは

教育内容の特別支援の話と物価高騰の話とあるのですけど、まず特別支援の関係で、何か御発言があればお願いします。

教育長　特別支援学級の子どもは年々増えています。しかも特別支援学級の子どもたちの様子も非常に重い子もいれば、非常にボーダーというような子もいるという状況の中で、津市としましては、もちろん特別支援学級の受け入れは大事にしていきますが、ボーダーというか、いわゆる特別支援学級にはどうかな、でも通常学級ではどうかなという子どもたちをもう少しなんとかしていくということで、通級指導ということに力を入れていきたいと考えています。ただ、通級指導にあたっては、指導者の養成というのがすごく大事になっていまして、その指導者をどう育てていくかということで、今、三重大学と協力を頂いて非常に力を入れているところなのですが、通級の指導者養成であったり、また後で出てくる不登校もそうですが、そういったあたり、今の一番現実的な課題となっている部分について、大学と上手く更に連携を深めながらやっていきたいということの合意が図られつつありますので、詳しくはまた新たな場所で正式に言わせていただきたいと思いますが、そんな方向で進めております。

津市長　よろしいでしょうか。
　次の物価高騰は、これは資料に書いてあったように、学校給食のところは、今年食材費が上がって支援金を入れたので、津市としては今までの施設だとか給食調理の人件費だとか光熱費だとかそういう給食を作る方は税金でカバーする、で、材料費は保護者でと言っていたのをいわば一歩踏み出したという状態になっているわけです。物価がウクライナ前に戻れば今の給食費でやっていくことでカバーできるのですが、物価が上がったままだとそうならないので、これはもう給食費を上げるか公費の導入を続けるしかないという整理になります。
　就学援助世帯の支援もこれは特にお困りの世帯への支援というのも、物価高騰の関係でやっていかないといけないだろうということになっています。
　よろしいですか。次は教職員の働き方で、スクール・サポート・スタッフと教員支援員ですが、これについて各委員何かありますか。

西口委員　これについては、本当に学校が上手く進んでいくのにこの人たちの力が大きいと思いますので、必ず充実していくようにして欲しい。で、ここに書いていないですが、特別支援教育支援員もきちんと充実していくことをお願いしたいと思います。

津市長　スクール・サポート・スタッフと教員支援員、特別支援教育支援員の

関係ですね。これまでの経緯とかを含めて、また次のときにデータを出してもらって、この後どうしていくという方向性を議論したいと思います。
　コミュニティ・スクールについては何かありますか。私からですが、次の施設整備にも関わってくるのかもしれないけれども、教員から出ましたよね、学校開放、地域開放含めると学校の改修整備を考えているときに学校の地域への開放を踏まえるなど新しい発想が必要になるかもしれないという校長会からの意見が出ました。これまで学校を地域に開放しなさいというのは、学校運営協議会で議論されていて、ハード面のことを言うと常に学校が攻め込まれている状態なのですね。つまり学校の教室が余っているから地域に開放してほしいと言われて、それに対して、校長が一生懸命防衛側にまわっているという守りがあったのですが、これは初めて攻めの姿勢が校長から出てきたので、私は、この発言にちょっと心ときめいたのです。

教育長　そうですね。校長先生の立場で言うと、やはり少人数ということで言われたりして、できたらそういった教室は確保したいし、いつも使わないけれどもというのがあって、良いですよというのはなかなか言いにくいところもあるのです。ただ、実態として学校を回らせてもらったときに、教室を何とか使わせてほしいなという学校が多いなというのは確かに思います。学童もそうですけど、いろんな意味で開放していくという方向性は、やはりあるのかなとは思うのですが、今でも若干、ミニ団地ができて増えているような学校があったりして、なかなかその辺が判断しづらく、防衛される校長先生の気持ちも良く分かります。

津市長　民間校長を入れたときから伝統というか歴史的な経緯もあるかもしれないけれど、例えば南が丘ですね、子どもがどんどん増えてきたり、あるいは学童が運動場にプレハブ４棟目を建てているようなところなのに、地域の方々が学校の中のことをよく知っていて、あの部屋もこういうふうに使わせてもらっていると、自慢げに言うんですね。ある意味非常に進んだ姿なのかもしれません。

教育長　南が丘はできたときから、すでに地域との付き合いが設計されていて、今、コミュニティ・スクールは津市全部にできましたけど、今回の場合は、後になってできてきたというのがあります。

津市長　そうやって折り合いをどうつけてきたかというところはあるのです。その辺はどうですか。

西口委員　新しく建てた学校で、最初からここは地域に開放するというふうにして建てている学校ってよく耳にしてきましたので、管理の面から考えると、そう切り離してあるといいのですが、後から入って来て、それが学校教育にプラスになるような使い方をしていただけるのなら。どんどん使っていただけたらいいのではないかなと思います。そこの考え方ですよね。学校教育にとってプラスになって、それに使って欲しいと思います。

津市長　地域と上手くやっていきながらということですよね。高野尾がたまたま小学校の中に幼稚園が入っていて、幼稚園が閉じてくなかでどうやって活用しようかという話がありますが、白塚はどうなるのですか。

教育長　白塚は幼稚園ができたばかりなので、もう少しするともっとオープンに有効に使うことができるようになります。あと１、２年ですね。

教育総務課教育財産管理担当副参事　白塚幼稚園につきましては、白塚小学校が平成２４、２５、２６と３年間で大規模改修をしておりまして、そのときに一体となって幼稚園も改修し、そのときの補助を受けました。一定の御意見・御要望を地域から頂いているのですが、やはり学校とは違う用途で使うとなると起債の返還として全額戻したりする、そういう条件というのがありまして、この３月くらいでそれが終わるようなことで聞いていますので、それ以降でまたどういうふうに活用していただくか、検討していきたいと思います。

津市長　いいですか。ではその次のその他のところで、教育環境、コロナ対応、水泳といろいろあります。施設については長寿命化を進める一方で、トイレの洋式化とかエアコン、このトイレの洋式化とエアコンはちょっと意味合いが違ってトイレの洋式化はもう６４．４％、そういう数字まできていますので、更にどうするか、エアコンについては一応全部設置されている状態なので、それに加えて今後の検討ということが書いてあるのですけど、ちょっと説明していただけますか。教育委員会事務局から。

教育総務課教育財産管理担当副参事　コロナ禍もまだ昨年からずっと続いている中で、元々設置していた例えば図書館なり、職員室なり、ずっとエアコンが設置していた部屋はあるのですが、どうしても老朽化で１５年、２０年と経ってきたものについては、故障しかけてるのもありまして、本年度も芸濃小学校で合併前につけられていたエアコンが、かなりの数の不具合が生じまして、そういうのも含めて新たに検討したいなとは思います。

津市長　芸濃小学校ではなくて、芸濃中学校ですね。

教育総務課教育財産管理担当副参事　失礼しました。芸濃中学校です。

津市長　取り換えというと、いろいろ問題が出てくるので、より機能を果たすための制度みたいな、言い方は忘れたのですけど。
　それからプールはどうしていこうという方向なのですか。

教育事務所調整担当参事・教育総務課長　プールに関しましては本年５校で民間プールを活用した事業をさせていただきましたが、逆に言いますと５校以外の所は原則学校プールを使っていただいて、非常に状態も悪くなっている中で学校の現場にも大分頑張っていただいて授業を継続していただいている状況でございます。これらのプールは引き続き老朽化が進んでいくのは必然でございますので、これらの学校プールが使えなくなったときに民間プールでありますとか、公用プールも含めまして、どこかで授業が継続できるような方向を考えております。
　現在、民間プールには１社の事業者さんが３つの民間プールでこの事業に参加いただいておりますが、他にも民間プールをお持ちの事業者がございます。様々な事情で本年度は事業に参加いただけませんでしたが、これらの事業者も含めて事業に参加いただけないかというようなことも含めて、もしくはサオリーナなんかでスイミングスクールをされている事業者さんもいらっしゃいますので、これらの事業者がこぞってこういった水泳授業の事業に参加いただけないかという方法を今、検討を進めているところでございます。

教育長　子どもはみっちり指導を頂いております。帰りのバスではぐったりするぐらい、しっかり指導を頂いています。

津市長　よろしいですか。ひととおり資料２に基づいてやりましたが、何か取り上げを残しているところとかありましたらどうぞ。

滝澤委員　その他のところ、新型コロナの対応というところで感染防止対策と教育活動の両立、これはすごく難しいと思います。コロナ感染が始まってから３年目となりますが、今の３年生は小学校１年生に入ったときからコロナの影響でマスクをする、学校が休みになるで、しっかりと教育が行き届いてない部分があるのではないかと思います。特に体力の低下とかプール指導が無かったことによる水の事故の増大とか、それから幼児期から先生の口元を見ることが

できなくて、しっかりとコミュニケーションできていないとか、学力もある程度影響があって、従来と比べてちょっと欠けてきているところがあるのではないかと思うのです。これが今、ワクチンとかである程度は収まっていますが、もしかすると第８波が起こってくるかもしれないということで、この現状の子どもの状態をしっかり見て、それに合ったような指導をしていかないと、やはり気を使っていかないといけないのではないかと思いますので、この辺をしっかりと見ていただくことが必要かと思います。

それと子どもへの対応で、自己肯定感を育むための取組の実施ということですが、子どもを本当にしっかりと理解してコミュニケーションを図らないと、この自己肯定感を育むための取組というのは、しっかりとはできないと思うのです。スクール・サポート・スタッフの増強とかですね、そのあたりで先生が子どもに向き合う時間をしっかり取っていただくということが非常に重要で、この自己肯定感を育むための取組の実施を、主な取組として特に上げるためにですね、やはり先生の教育環境、向き合う時間、これをしっかり確保して、一人一人の子どもの状況を把握しながらコミュニケーションをしっかり取っていただくことが非常に重要だと思っています。ですからこれを主な取組として挙げるということが、より教育委員会としても責任が重いと言いますか、この環境整備をしっかりしていただきたいなと思っています。何卒宜しくお願い致します。

津市長　全部繋がるということです。他にいかがですか。

西口委員　私も一緒のところを思っていたのですが、予算に繋がっていかないなと思いながらも、コロナで３年たって、今まで特別なことをしていると思ってきたけれど、これが普通になって来年４年目を迎えます。特に気になるのが子どもの体力で、万歳ができない子も出てきたというようなことを聞いたりすると、体力の低下というのが大きく影響を受けているところじゃないかと思うので、遊具の点検も含めて遊びながらでも体力が付いていくようなことを大事にして欲しいと思います。

ここには入ってないのですが、放課後児童クラブの充実について、何も出ていないのですが、いいのかなと思っています。

津市長　では放課後児童クラブの件なども含めてしっかりまた政策、今回このこういうテーマ別にやりましたが、もう少し政策体系の中で、今度は少し方向性を出しながら会議をしていただくということで宜しいですかね。では次回はそういうことで。今日は宿題になったデータの整理なども含めて進めていただ

きたいというふうに思います。
　以上で今日は懇談会の議論を受けた今後の取組についての協議をこれで終わらせていただきます。では２番、その他何かございますか。

事務局　はい。事務局からは用意しておりません。何か、その他でございましたらお願いします。宜しいでしょうか。それでは終わりに当たりまして市長から御挨拶をお願いします。

津市長　では以上を持ちまして第４９回津市総合教育会議を閉会致します。ありがとうございました。